

4月度生涯研修

歯科医院のリスクマネージメントを解説

高齢化や医療過誤への対応

臨床学部は4月6日、「歯科医院におけるリスクマネージメント」をテーマに生涯研修講座をM&Dホールで開いた。前田茂氏（東京科学大学 歯科麻酔学分野教授）を講師に24人が参加した。

高齢化に伴って心房細動が増えると脳卒中のリスクが高くなるため、歯科外来においても診療の有無と関係なく突然の体調不良を訴える確率も増すということを認識するべきである。そこで情報収集と評価が大切になる。情報収集はおくすり手帳、評価はモニターが有用である。

あり、モニター心電図におけるこれらの波形を解説した。

ており、意識があればバイタルサイン測定と必要に応じて外部への連絡、意識がなければBLS、アナフィラキシーの可能性が高ければアドレナリン注射をする。また高血圧・糖尿病・心不全等を有する患者への具体的な対応についても紹介。これら併存疾患に対して

は、事前の情報収集や日常的にモニタリングを記録することが急変時の迅速な対応に繋がることを説明した。

るものではないが、医療過誤という意味では誤拔牙を含む治療の間違いや、自費治療では結果責任が問われる可能性が高い。対策として、誠実に医療を行うという意味でも説明と同意の記録を残すことが必要であることを強調した。

接遇マナー講座

不安抱えた患者に寄り添う

4月19日、「患者さんをあたたかく迎えるために」と題し、接遇マナー講座をOMMビルで開いた。日本航空で客室乗務員や企業研修講師を歴任した横山桂子氏が講師を務め、39人が参加した。

横山氏は「接遇とは相手手を尊重して接することである。治療の観点から接遇から生まれる安心感、感謝は重要」と患者対応における接遇の大切さを語った。

横山氏は、接遇のなかでも挨拶や身だしなみ、姿勢について注意するポイントを解説した。「挨拶は心を開きあうための一歩目。こちらから踏み出して寄り添うことで安心感のある空気が作れる。不安を抱えた患者さんを安心させるための、共感や明るさが伝わる表情、TPOにあった清潔感のある身だしなみ、背筋を伸ばしおさなりでない体の向きが大切だ」と実習も交えて説明した。

参加者からは「どんな実践して自分のものにしたい」「患者さんとのコミュニケーションに悩んでいた。自分にとってためになることばかりで勉強になった」などの感想が寄せられた。

では、①ニーズに見合った講習会②社会保障拡充の運動③新たな情報発信ツールの活用——に取り組むことを確認した。総会後、記念講演として「この点数見落としがちな項目を『歯科保険診療の研究』からピックアップしたスライドテキストを資料に解説してもらった。

休業保障 春の募集

(2025年8月1日加入)

申し込み
締切迫る

5月25日まで

電話 06-6568-7438 (共済部)

- 掛金は加入時のまま
- 最長730日保障
- 解約時に払い戻し

核の資金断つ国際運動

投資撤退へ新たな潮流生む

大阪府歯科保険医協会理事・中村新太郎
反核医師の会世話人

講演する前田氏＝4月6日、M&Dホール

モニターの心電図で見るべき不整脈には①心室性期外収縮②上室性(心房性)期外収縮③心房細動が



被爆80年

核なき世界をめざして
DBOBプロジェクト①

私たちが何気なく銀行に預けているお金がどのように使われているか、考えたことはあるだろうか。ほとんどの場合は、中小企業の経営や住民の暮らしを支えるために有効に活用されている。しかし、もし、私たちの預金核兵器の製造に使われているとしたら――。

オランダのNGO「PAX」が2025年2月に発表した調査では、世界の260の金融機関が核兵器製造企業に対して117・5兆円もの巨額を投融資していることが明らかになった。しかも、融資額上位10社には日本のメガバンク3行が

名を連ねている。この融資の中には私たちが預けたお金も含まれている。こうした現状に立ち向かうため生まれた国際的な運動が、Don't Bank on the Bomb (DBOB、核兵器にお金を貸すな)。17年にノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)のプロジェクトの一つで、金融機関に対して核兵器製造企業への投融資をやめるよう迫り、核なき世界の実現を目指す試みだ。

日本では近畿の保険医協会や民主医療機関連合会などをつくる近畿反核医師懇談会が中心とな

り、ICANパートナー団体の反核医師の会とともに19年から取り組んでいる。核戦争の危機が高まる中、世界中の金融機関で核兵器製造企業への投融資を取りやめる新たな潮流が沸き起きている。(つづ)

三島地区総会

企画・発信を強化

三島地区は総会を3月29日、高槻市内で開き「地区企画や情報発信を強化し、地区活動の更なる活性化に取り組む」ことを盛り込んだ2025・2026年度活動方針を決めた。24年度活動報告や収支報告、2025年度予算、役員体制を原案通り承認した。

市子ども医療費助成制度が18歳まで拡充したことなどを紹介した。方針

では、①ニーズに見合った講習会②社会保障拡充の運動③新たな情報発信ツールの活用——に取り組むことを確認した。総会後は役員会を開き、企画の具体化を議論した。

南河内地区総会

算定見落とし防ぐ
記念講演開催

南河内地区は総会と記念講演を4月5日(土)、河内長野「レンタルスペース・ノバティながの」

で開いた。総会では、24年度活動報告や収支報告、2025年度活動方針・予算、役員体制の選

た。

「保険医年金・休業保障共済保険紹介キャンペーン」中止のお知らせとお詫び

平素より当会の共済制度ならびに各種事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、このたび2025年4月より実施しておりました「保険医年金・休業保障共済保険紹介キャンペーン」につきまして、関係法令との整合性において適切性を欠く可能性がある指摘を受け、関係機関と協議の上、誠に遺憾ながらやむなく中止とさせていただくことと致しました。

本キャンペーンは、会員の皆様からのご紹介を通じて共済制度への新規加入を促進し、制度の理解と普及を目的として企画・実施したものでございましたが、法令遵守の観点から見直しが必要との認識に至りました。制度運営の不備を深く反省しております。

関係各位におかれましては、ご期待に沿えず、心よりお詫び申し上げます。

なお、共済事業とは別に、組織部が実施しております「新規入会紹介キャンペーン」につきましては、継続して実施しておりますので、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

今後は、事業実施にあたっての法令確認体制を強化し、再発防止とより透明性の高い制度運営に努めてまいります。引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年4月23日

大阪府歯科保険医協会
理事長 小澤 力